## ３　普通作物畑の除草剤

### （１）コムギの難防除雑草の防除対策

ア　耕種的防除法

夏期湛水することにより翌年の発生を軽減できる。実際には７月～８月に 15 日間程度の常時湛水条件でカラスムギは死滅し、ネズミムギの種子の死滅には 60 日以上の常時湛水が必要となる。ただし、湛水期間、湛水量が少ない場合や間断湛水条件では効果が劣る。

イ　グリホサート抵抗性ネズミムギについて

数年前からグリホサートに抵抗性を持つネズミムギの発現とその発生拡大が県内各地域で確認されている。麦類の耕起・播種前や、出芽前のグリホサート剤散布で、ネズミムギへの効果が劣る場合には、これ以外のグルホシネート剤等の処理が有効である。ただし中遠地域の一部では、最近になってグルホシネート抵抗性のネズミムギが発見された。グルホシネート剤の連続散布は避け、グリホサート剤、グルホシネート剤およびその他の有効な茎葉処理剤を交互に用いながら、抵抗性雑草の拡大を防ぐ防除が必要である。

また、畦畔に発生するネズミムギ防除法として、晩秋から厳冬期（11 月～2 月）に DBN 粒剤 4.5 を散布し、早春（3 月中下旬）にイネ科雑草専用剤であるキザロホップエチルフロアブルまたはフルアジホップＰ乳剤に非選択性除草剤であるグリホサートカリウム塩液剤またはグルホシネートＰナトリウム塩液剤を混合して散布することでネズミムギやその他の雑草の発生を大きく抑えることが可能である。これにより畦畔から本田へのネズミムギの侵入量を減らすことができる。

### （２）ダイズの難防除雑草の防除対策

ア　イマザモックス剤、ベンタゾン剤の主な適用草種

| | | 効　果 | |
|---|---|---|---|
| 科　名 | 雑　草　名 | イマザモックス剤 | ベンタゾン剤 |
| タデ科 | | ◎ | ◎ |
| キク科 | オオオナモミ | ― | ◎ |
| | オナモミ | ◎～○ | ◎ |
| ヒルガオ科 | ホシアサガオ | ◎～○ | ○～△ |
| | マメアサガオ | ◎～○ | △～× |
| | マルバアサガオ | ― | ○～△ |
| | マルバアメリカアサガオ | ◎～○ | △～× |
| | マルバルコウ | ◎～○ | ○～△ |
| ナス科 | イヌホオズキ | ◎ | ○～△ |
| | オオイヌホオズキ | ◎ | △～× |
| | ヒロハフウリンホオズキ | ◎ | △～× |
| | ホソバフウリンホウズキ | ― | ○～△ |
| マメ科 | クサネム | △ | △ |

効果凡例　◎：極大

○：大（枯死に至らずとも強い抑制が認められる場合を含む）

△：中

×：小

－：不明